

キ ッ ズ レ タ ー

2002.06.21発刊 第75号

編集 さぬき市民病院小児科外来

はじめに

ここ数年、麻疹が全国的に猛威を振っています。香川県でも、同じ時期にたくさんの患者さんが発生しました。高熱で脱水症を起こしたり、肺炎を併発して入院を要したお子さまが多く見られました。いろいろな理由で予防接種を受けられなかったケース・接種しても十分な免疫ができないケース・成人発症

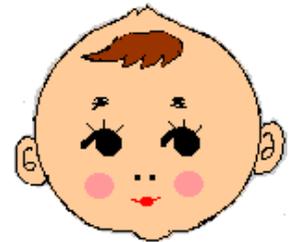
例などが問題となります。さらに乳幼児が集団生活の開始とともに感染する機会が目立つことから、一歳前から公費負担・全額負担・WHO推奨の二回接種など、確実に麻疹の免疫獲得ができるよう法制度の改正を小児科医会から厚生労働省へ要望書が提出されるようです。

(1) ツベルクリン反応廃止へ 坂口 善市

平成11年には、新規肺結核患者数の増加から「**肺結核緊急事態宣言**」が発せられ、肺結核が依然として注意すべき疾患であることが伺われます。従来、結核の発見と予防のために乳幼児や小中学生のツベルクリン反応(ツ反)が定期的に行われてきました。ツ反陰性者を対象にBCG接種を早期に済ませておくことで乳幼児の重症結核である結核性髄膜炎や粟粒結核の発病が予防され、BCG接種の有効性が認められてきました。

ただ、最近では、本邦での結核患者数の絶対数が減ってきていることも事実です。さらには、今までのような無差別で無闇な定期健診では、結核患者と接触して発病する可能性のある人たち・子供たちなどを効率よく発見・診断することができなくなっていると指摘

され、欧米ではツ反・BCG再接種などの廃止が進んでいます。そこで、本邦でも**結核予防法の改正**が行われそうです。患者さんの周囲にいる人たちへの**接触者検診**を強化することで、より効果的で有効な結核予防が実施されるように厚生労働省で検討されてきました。**ツ反の原則廃止**が決定し、**生後6ヵ月までの乳幼児に一回のみBCG**を接種することとなりました。BCG再接種を小中学生では行わない方向です。



小児科外来ホームページ
<http://webs.to/shounika>

目次

はじめに	1P
今月のレター(1) 「ツベルクリン反応 原則廃止へ」	1
ニュース&ハイライト	1
7月～8月ごろに 流行する疾病	2P
予約外来 予定一覧	2
今月のレター(2) 「好き嫌いを 無くすために」	2

ニュース&ハイライト

- ◆ 小児科HPアドレスを変更しました。
<http://webs.to/shounika/>
- ◆ 病院ホームページが昨年末に開設されました。
<http://www.shikoku.ne.jp/sanuki-sb/>
- ◆ 東讃地区での、小児夜間診療体制の確立が検討されています。地元医師会と当院との話し合いを進めています。
- ◆ 7月から当院の乳児検診が木曜日の午後に変更されます。ご迷惑をお掛けしますがご了承ください。
- ◆ さぬき市の乳児検診、一歳半・三歳児検診が津田町保健センターにて行われます。市内の小児科医全員で分担します。しっかり、ご利用ください。

キッズレター

さぬき市民病院小児科外来
月刊情報誌
～ 子供たちの健康を願って ～

〒769-2329
香川県さぬき市石田東甲387
さぬき市民病院 小児科外来
内線 310

Tell : 0879 (43) 2521
Fax : 0879 (43) 6469
Email : okawa.gh@viola.ne.jp

病院HP//www.shikoku.ne.jp/
sanuki-sb/
さぬき市暫定HP//www.sanuki.ne.jp

ホームページもご覧ください。
<http://webs.to/shounika>

時候に合ったテーマで毎月お母さま方に
情報を提供させていただいています。

次号は8月下旬に発刊予定です。

7月～8月に流行しそうな疾病

* 扁桃腺炎・水痘・手足口病・ヘルパンギーナなどの夏かぜが引き続き多いです。経口感染がほとんどです。手洗いとうがい大切です。髄膜炎が散見されます。
* 歯肉口内炎、口唇ヘルペスなど、単純ヘルペスによる感染が増加します。初感染による場合は高熱が数日続きます。アトピー性湿疹部に広がると要注意です。
* 蚊などの害虫に刺されると、子供たちの皮膚は大きく腫れ上がります。抵抗力がないため、強いアレルギー反応が起こるわけです。象さんの足のよう手足が腫れる事も多いようです。痒くなって掻き破ると「とびひ」が発症します。こまめな消毒が大切です。

小児科予約外来のお知らせ

・乳児健診の予定(母子手帳) 担当医:井上医師
木曜日午後から診察です。1週間前までに予約して下さい。

6月 (* ・ 18日)

7月 (4日 ・ 18日)

・定期予防接種の予定 担当医:坂口・伊勢医師
印鑑・母子手帳が必要です。水曜日午後に予約・前後半の二部制で行っています。

前週金曜日が締め切りです。

6月 (5日 ・ 12日 ・ 19日 ・ 26日)

7月 (3日 ・ 10日 ・ 17日 ・ 24日 ・ 31日)

・心臓外来の診察 担当医:井上・伊勢・秋田医師
火曜日午後2時に実施しています。要予約です。

次回予定(7月09日)次々回予定(8月13日)

(2) 「好き嫌い」を無くすために

幼児期にみられる「好き嫌い」は、一生涯の健康を左右するほど重要な問題です。最初のつまづきは、幼稚園や小学校での給食に対する「好き嫌い」です。食べ物の好き嫌いが多い子供たちの他に、食事が遅い・食べ方が下手な子供たちにとって給食は楽しいどころか苦痛の種になります。担任の先生の給食に対する考え方や態度により子供たちの給食との関わりも影響を受けます。ただ、入学・入園前に偏食を少なくしておくこと、普通の早さで食事ができることなどを習慣づけておくことがまず大切でしょう。

幼児期での食事回数は、主に朝・昼・夕食と10時・15時の間食になります。これらの食事で、バランスの良い年齢に合わせた必要十分な栄養素を摂取することが大切です。ところが、食べ物が豊富で手近に食品を得ることができるため、ダラダラ食べになるケースが現在では増加しているようです。そのため、空腹と食事のリズムが無くなっています。

どのような解決法があるのでしょうか。まず、間食はできるだけ栄養価の低い物にします。よく遊び、よく眠らせるようにします。食事を嫌う場合に「何とかして

小児科外来 吉田由樹

食べさせよう」と無理強いしないようにします。次に、家族全員で食卓を囲んで楽しい食事時間を過せるよう工夫をしてみると良いでしょう。早く食べなさいこぼさずに食べなさい 栄養があるから食べなさい ちゃんは食べるのに。などの言葉は避けたいものです。

家族みんながいつも仲良く笑顔で暮らす。そして、家族団らんの中で「美味しいね」「楽しいね」と語り合いながらゆっくり食べる。そんな家庭で育てられた子供は、きっと「好き嫌い」のない健康的で明るい人間へ成長していくことでしょう。

